

研究主任会の使命について

研究主任会は本来、親睦会であって、定期的に研究業務に関する情報を交換し、所内の研究上の知識を深めるのが目的である。

従って、本書のように原研のあり方を批判し、改組に関する意見を吐くようなことは、本来の使命を逸脱するものであると考えている。

あえて、このようなこともまじめな理由は、原研が現在のようになった責任の一端は、我々にもあると考えたためである。我々としてはなるべく早い時期にこうした本来望まぬことをしないで済むように原研が改善されることを心から望んでいることを明らかにする。

(1) 原子力の日本における位置と原研

原子力発電コストが重油専焼火力に匹敵するにつあり、10〜15年後にはそれを下回る可能性がある。つまり、純経済ペースで競争力が出てきたこと、及び日本のエネルギー資源の乏しさから考えると世界の先進国のなかで日本は原子力のコストが最も高い国となる。したがって、原子力発電技術で日本が世界の一流国となるためには、原研の使命は重大である。原子力技術の開発には巨大な資金を要し、当然安全性の保障ということもあり、単一のメーカーでは開発を負擔しきれないので原研の責任は大きい。

しかし原研の現状はこのような使命を充分果たすには、ほとんど遠い状態にある。初期においては原研の目的は研究開発にあり、大型装置はそのための一つの道具としか考えられていなかった。しかし今や道具の建設、維持、運転の人員、予算等の運営面では研究開発をほろかにしのいで原研の大部分を占むに到った。その様子は次の図の通りである。